

8月22日(金) プレコンGRES

第1会場 (国際会議室 501)

14:00～16:30 AHT研究部 第14回シンポジウム

17:00～20:30 ケースレビュー委員会主催 第24回事例検討会

第2会場 (中会議室 502 + 503)

14:00～15:00 BEAMS Stage 1

15:10～16:40 BEAMS Stage 2

8月23日(土) 1日目

第1会場 (国際会議室 501)

08:30～08:50 開会式

大会長挨拶 神菌 淳司 (社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院 精神科)

09:00～10:30 シンポジウム1

「周産期のメンタルヘルスケアと子どもの虐待予防」

座 長: 中村俊一郎 (慶應義塾大学医学部小児科)

本田しのぶ (福岡赤十字病院 小児科病棟看護師)

基調講演: 山下 洋 (九州大学病院 子どものこころの診療部)

シンポジスト: 児玉 春菜 (福岡赤十字病院 産婦人科病棟)

菊本絵万里 (産前・産後母子支援センター Comomotie)

10:40～12:10 シンポジウム2

「スペシャルニーズのある子どもたちの居場所をデザインする～周産期と地域での実践～」

座 長: 荒木 俊介 (はぐむのあかりクリニック)

勝連 啓介 (発達相談クリニックそえ～る)

シンポジスト: 網塚 貴介 (青森県立中央病院)

丸山 有子 (いまきいれ総合病院)

金原 洋治 (かねはら小児科)

金子 淳子 (金子小児科)

12:30～13:30 共催セミナー1 (共催: ミヤリサン製薬株式会社)

「子育てに役立つ漢方」

座 長: 稲光 毅 (いなみつこどもクリニック)

演 者: 小川 恵子 (広島大学病院 漢方診療センター)

13:40～14:40 特別講演 1

「子ども虐待の発生メカニズムと影響を探る」

座 長：井上 登生（中津こどもメディカルスーパーバイザー）
演 者：黒田 公美（東京科学大学 生命理工学院）

14:50～16:20 シンポジウム 3

「気になった！さあ、どうしよう？ ―看護職にできる養育者支援―」

座 長：長友 太郎（福岡赤十字病院）
梶原 陽子（福岡赤十字病院）
シンポジスト：定栄 千佳（福岡赤十字病院）
村山 順子（福岡大学病院）
青野 広子（福岡看護大学）
松岡ちずよ（真田産婦人科麻酔科クリニック）
黒川美知子（くろかわみちこ小児科クリニック）
指定討論者：松本 宏美（福岡市南区保健福祉センター）

16:30～18:00 シンポジウム 4

「虐待の背景で押さえておきたい精神医学 ～親の精神疾患から希死念慮の対応まで～」

座 長：松岡美智子（久留米大学神経精神科）
菊地 祐子（子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ）
シンポジスト：箱島 有輝（国府台病院 児童精神科）
石田 哲也（久留米大学神経精神科）
千葉比呂美（久留米大学神経精神科）
吉村 裕太（福岡大学精神神経科）

第2会場（中会議室 502 + 503）

09:00～10:30 シンポジウム 5

「性虐待診療の現場から見える課題と展望～それぞれの立場から～」

座 長：川口 真澄（那覇市立病院）
木下あゆみ（四国こどもとおとなの医療センター）
シンポジスト：溝口 史剛（高崎総合医療センター）
三浦 耕子（沖縄県立中部病院）
菊地 祐子（子どもと家族のメンタルクリニック やまねこ）
上野 里恵（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 看護部）

10:40～12:10 子ども虐待法的対応セミナー

「教えて！医療現場の法的対応

～現場での疑問から民法改正（離婚後の共同親権等）に関する最新の問題まで～」

座 長：一宮里枝子（福岡県福岡児童相談所 児童福祉法務専門監 弁護士）

シンポジスト：森吉 研輔（北九州市立八幡病院 小児科）

久保 健二（福岡市こども総合相談センター常勤弁護士）

12:30～13:00 教育講演 1

「体重増加不良の中に潜む鑑別が重要な小児の消化器疾患」

座 長：岡田あゆみ（岡山大学病院小児医療センター 小児心身医療科）

演 者：水落 建輝（久留米大学医学部小児科学講座）

13:00～13:30 教育講演 2

「成長・体格の異常を見逃さない：疾患と養育環境問題の早期発見の鍵」

座 長：岡田あゆみ（岡山大学病院小児医療センター 小児心身医療科）

演 者：山本 幸代（産業医科大学医学部 医学教育担当教員）

13:40～14:40 教育講演 3

「性暴力被害者支援における産婦人科医の役割」

座 長：小川 厚（福岡大学筑紫病院）

演 者：坂井 邦裕（西福岡病院 婦人科）

14:50～16:20 シンポジウム 6

「医療と児童相談所の連携～児相が求める連携とは？～」

座 長：森吉 研輔（北九州市立八幡病院 小児科）

一宮里枝子（福岡県福岡児童相談所 児童福祉法務専門監 弁護士）

シンポジスト：松尾 正和（福岡県福岡児童相談所 相談第一課）

濱畑 善行（福岡市こども総合相談センター こども緊急支援課）

守田 敬一（北九州市子ども総合センター 児童虐待対策担当課）

指定討論者：石倉亜矢子（函館中央病院 小児科）

16:30～18:00 シンポジウム 7

「被虐待児の診療録記載のポイントと開示請求への対応」

座 長：石倉亜矢子（函館中央病院 小児科）

丸山 朋子（大阪急性期・総合医療センター 小児科・新生児科）

シンポジスト：本山 景一（茨城県立こども病院 救急集中治療科）

橋倉 尚美（社会医療法人愛仁会高槻病院）

福田 育美（四国こどもとおとなの医療センター地域医療連携室）

根ヶ山裕子（名古屋市西部児童相談所 弁護士）

13:40～14:40 実行委員会推薦演題1

座 長：荒木 俊介（はぐむのあかりクリニック）
武藤雄一郎（熊本赤十字病院 小児科）

1-1：院内委員会で虐待を疑われたが最終的に脳死下臓器提供に至った1例
賀来 典之（九州大学病院 救命救急センター）

1-2：脳神経外科医から考える AHT に関する問題点
「解決しつつある」課題と「解決すべき」課題
朴 永銖（奈良県立医科大学 脳神経外科 兼 小児医療センター）

1-3：代理ミュンヒハウゼン症候群を持つ母親の影響により擬似 ADHD を呈した1例
阿部 孝典（高知市こども未来部・春野うらかクリニック小児科・内科）

1-4：保護者の入院治療拒否に対し、児童相談所の介入を要した摂食障害の1例
上野 知香（社会福祉法人 聖ルチア会 聖ルチア病院・精神科国立病院機構
東佐賀病院 小児科）

ポスター会場（409＋410）

14:50～16:20 ポスター1

座 長：大島 誠（地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院）
山本真由美（小豆島中央病院 小児科）

P1-1：福井大学附属病院における院内虐待防止委員会の取り組みと、子どものこころ
診療部における発達課題・マルトリートメント症状の初期アセスメントの重要性
堀内 愛佳（福井大学医学部附属病院 子どもこころ診療部）

P1-2：NPO 法人内における CPT 設置
—医療・福祉現場での多職種連携による虐待予防体制の構築—
上田 華奈（認定特定非営利活動法人にこり）

P1-3：障害児者専門リハビリテーション病院の CPT における医療ソーシャルワーカー
の課題
岸 伸江（ボバース記念病院 診療部 医療社会事業課）

P1-4：大学病院における子ども支援チームの継続性への取り組み
原田なな子（東京医科大学病院 医療福祉相談センター）

P1-5：当院の子ども虐待対応チームにおける新たな虐待分類の導入と妥当性の検討
岡村有加里（九州大学病院 医療連携センター）

座 長：天竺 俊介（国立成育医療研究センター）
高橋 英城（滋賀県立総合病院 小児内分泌代謝糖尿病科）

P1-6：虐待による乳幼児頭部外傷（AHT）の鑑別疾患を重視し対応を模索した乳児硬膜下血腫の一例
大平 智子（宮崎県立宮崎病院）

P1-7：乳幼児転倒における頭部への衝撃力及び回転速度と頭部外傷との相関関係
秋葉 教充（科学警察研究所）

P1-8：看護師向け子ども虐待予防プログラムの構築
—小児救急看護認定看護師を対象とした調査—
白石 裕子（東京工科大学 医療保健学部看護学科）

P1-9：子ども虐待医学ならびに多機関連携のための本格的Eラーニングシステムの普及・活用に向けた取り組み
溝口 史剛（高崎総合医療センター小児科）

18:00～18:30 ポスター3

P3-1：身体的虐待児例から得た司法福祉医療による早期連携の課題
亀井 優（東京医科大学病院 小児科・思春期科）

P3-2：日本子ども虐待医学会主催オンライン型BEAMS stage1開催の効果と課題
米山 法子（日本子ども虐待医学会BEAMS委員会／市立秋田総合病院小児科）

P3-3：子ども虐待対応院内組織の活動と課題
～聞き取りができる看護師育成を目指す～
大西真理子（四国こどもとおとなの医療センター）

P3-4：虐待環境を背景とする神経発達症児に対する精神科的介入の実践と課題
梶原 眞理（社会医療法人聖ルチア会聖ルチア病院）

P3-5：シミュレーションソフトウェアを用いた乳幼児頭部外傷状況のコンピュータ画像上解析
伊藤 安海（山梨大学）

P3-6：受傷機転不詳の外傷性脾損傷の2小児例
石川 順一（大阪市立総合医療センター）

P3-7：産後の継続的母子支援による虐待予防の報告
—訪問看護の実践から見えた支援の意義—
久保 陽子（認定NPO法人にこり およこの訪問看護ステーションにこり）

P3-8：演題取り下げ

- P3-9 : 大阪母子医療センター院内虐待防止活動の変遷と課題
小杉 恵 (地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター 子どものこころの診療科)
- P3-10 : 外科治療を要した受傷機転不明の乳幼児重症頭部外傷
黒羽真砂恵 (東京都立小児総合医療センター 脳神経外科)
- P3-11 : 小児外傷患者全例に対する外傷評価シートの活用
加納 原 (京都第二赤十字病院小児科)
- P3-12 : 高知市こどもみらいセンターにおける親子支援および児童虐待への取り組み
阿部 孝典 (高知市こども未来部)
- P3-13 : スキンケアを通じて要保護児童の家族と良好なパートナーシップを確立した1例
高端 裕人 (神戸市立医療センター中央市民病院 小児科)

ポスター会場 (413 + 414)

18:00～18:30 ポスター4

- P4-1 : HICを利用した落下高—衝撃力グラフによる乳児頭部外傷評価について
原間 利之 (静岡県警察本部刑事部科学捜査研究所)
- P4-2 : 子ども虐待対応院内組織 (CPT: Child Protection Team) の活動展開と連携上の課題
内村 絵美 (宮崎県立宮崎病院 小児科)
- P4-3 : 障害児者専門リハビリテーション病院の虐待の傾向と課題
平井 聡里 (ボバース記念病院 小児神経科)
- P4-4 : 小児の胸腺超音波検査方法の開発
—超音波検査で胸腺の大きさを的確に評価しえるか—
井潤 美希 (岡山大学 法医学)
- P4-5 : CMLのCT診断例および最近の文献考察
横井 広道 (国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター小児整形外科)
- P4-6 : 頭蓋骨骨折の受傷部位・受傷時期の推定に関する仮説
内ヶ崎西作 (東京医科大学基礎社会医学系法医学分野)
- P4-7 : 聖マリア病院虐待対応委員会の活動と課題
堀江 祐樹 (社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院)
- P4-8 : 当院における虐待予防対策の現状と課題
猪尾希文世 (国立病院機構 小倉医療センター 地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー)

P4-9 : 青年期ヤングケアラーの援助希求行動を促す医療的支援の可能性：1症例を通じた検討

安部 泰弘（社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院）

P4-10：福井県立病院虐待対応委員会の活動と課題～北米型ER医の視点から～

田中 惇也（福井県立病院）

P4-11：A病院における子ども虐待リスク要因のスクリーニング実践報告

杉田まゆみ（釧路赤十字病院）

P4-12：福島県内臨床研修医に対する研修会活動とアンケート調査

鈴木 雄一（福島県立医科大学小児科）

P4-13：虐待対応に関する当院スタッフへの啓蒙活動と体制整備の取り組み

石山 美咲（津軽保健生活協同組合 健生病院）

P4-14：小児のタバコ火傷 cigarette burns

～法医鑑定で明らかにすべき事項について～

原田 一樹（福島県立医科大学法医学講座）

8月24日（日） 2日目

第1会場（国際会議室 501）

08:00～08:50 教育講演4

「救急外来の関わりが子ども支援につながるには
～子育て支援の全体像から具体的な声かけまで～」

座 長：古野 憲司（福岡赤十字病院）

演 者：中村俊一郎（慶應義塾大学医学部 小児科）

09:00～10:30 国際シンポジウム

「子ども虐待医学と子どもの権利」

座 長：山田不二子（認定NPO チャイルドファーストジャパン）

シンポジスト：奥山眞紀子（山梨県立大学大学院人間福祉学研究科）

Bruce Adamson（Past Children and Young People's Commissioner cotland）

山口 有紗（子どもの虐待防止センター・国立成育医療研究センター社会医学研究部）

10:40～11:40 特別講演2

「ICD-11におけるcomplexPTSD：児童期マルトリートメントの短期・長期的影響」

座 長：大治 太郎（聖ルチア病院）

演 者：大江美佐里（久留米大学医学部 神経精神医学講座）

12:00～13:00 共催セミナー 2 (共催：武田薬品工業株式会社)

「子ども虐待の危険因子という視点からみた親のパーソナリティ特性や神経発達症特性」

座 長：小曾根基裕 (久留米大学医学部 神経精神医学講座)
演 者：辻井 農亜 (富山大学附属病院 こどものこころと発達診療学講座)

13:10～14:40 シンポジウム 8

「子ども虐待事例データベースへの症例登録と登録データを用いた臨床研究」

座 長：安 炳文 (京都第一赤十字病院)
内ヶ崎西作 (東京医科大学 法医学分野)
シンポジスト：山本 英一 (愛媛県立中央病院 小児科)
高橋 英城 (滋賀県立総合病院 内分泌代謝糖尿病科)
石川 順一 (大阪市立総合医療センター 小児救命救急センター)
富永 禎弼 (東京女子医科大学附属足立医療センター 脳神経外科)
栗原八千代 (聖マリアンナ医科大学 小児科)
小川 優一 (千葉県こども病院 救急総合診療科)

14:50～16:20 シンポジウム 9

「子ども虐待に対応する医師に求められる医師像とは？」

座 長：古野 憲司 (福岡赤十字病院)
シンポジスト：井上 登生 (中津こどもメディカルスーパーバイザー)
米山 法子 (市立秋田総合病院)
岡田あゆみ (岡山大学病院)
橋倉 尚美 (高槻病院)

16:20～16:30 閉会式

次回大会長挨拶 本山 景一 (茨城県立こども病院 救急集中治療科)

第2会場 (中会議室 502 + 503)

08:00～08:50 教育講演 5

「子ども虐待と骨・軟部組織超音波検査～こども達の代弁者となるために～」

座 長：横井 広道 (四国こどもとおとなの医療センター 小児整形外科)
演 者：小野 友輔 (北九州市立八幡病院 小児臨床超音波センター)

09:00～10:30 シンポジウム 10

「重篤事例急性期の現状と捜査機関との連携 (小児救急・集中治療の現場から)」

座 長：安 炳文 (京都第一赤十字病院 救急科)
武藤雄一郎 (熊本赤十字病院 小児科)
シンポジスト：起塚 庸 (高槻病院 PICU)
山上 雄司 (兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科)
賀来 典之 (九州大学病院 救命救急センター)
西頼 慎悟 (福岡県警察本部刑事部捜査第一課)

10:40～11:40 教育講演 6

「Abuse 対応現場で知っておきたい凝固異常～家族に不要な負担をかけないために～」

座 長：荒木 尚（埼玉県立小児医療センター 外傷診療科）
演 者：白山 理恵（産業医科大学 小児科学教室助手・血友病センター）

12:00～13:00 教育講演 7

「歯科受診行動や口腔症状を通して考える子ども達の生活環境」

座 長：岩原 香織（日本歯科大学 歯科法医学）
演 者：岡 暁子（福岡歯科大学 成長発達歯学講座 成育小児歯科学分野）

13:10～14:40 シンポジウム 11

「性虐待対応における本邦の現状と CAC 設立に向けた取り組み」

座 長：小川 優一（千葉県こども病院）
福田 育美（四国こどもとおとなの医療センター）
シンポジスト：本山 景一（茨城県立こども病院）
田上 幸治（神奈川県立こども医療センター）
毎原 敏郎（兵庫県立尼崎総合医療センター）
守谷 充司（仙台市立病院）

14:50～16:20 シンポジウム 12

「気づきから始まる看護師業務とシステム化の工夫」

座 長：梶原 多恵（北九州市立八幡病院）
木島久仁子（群馬県立小児医療センター）
指 定 発 言：毎原 敏郎（兵庫県立尼崎総合医療センター）
シンポジスト：橋本 優子（北九州市立八幡病院）
時津 晴美（飯塚病院）
平方多美子（JCHO九州病院）
藤田めぐみ（福岡大学病院）
野中 美喜（福岡市立こども病院）

2025年8月24日 10:40～11:40 実行委員会推薦演題 2

座 長：田中祥一郎（ひこばえ子どもクリニック / 飯塚病院）
川口 真澄（那覇市立病院 小児科）

2-1：当院における精神的・社会的ハイリスク妊娠支援の多職種連携体制
—退院先の異なる3症例を踏まえて—
北川麻里江（小倉医療センター 産婦人科）

2-2：性虐待・性暴力被害対応チームの設置・活動と課題
植松 悟子（国立成育医療研究センター 救急診療部）

2-3：虐待歴のある家庭で一時保護されITPと診断された1歳男児例
大富 滉平（独立行政法人 国立病院機構都城医療センター 小児科）

- 2-4 : 性被害患者の診察における千葉大学法医学と小児科・産婦人科の連携
齋藤 直樹 (千葉大学大学院医学研究院 法医学)

ポスター会場 (413 + 414)

13:10 ~ 14:40 ポスター 2

- 座 長: 浅井 鈴子 (武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科)
小川 優一 (千葉県こども病院 救急総合診療科)

- P2-1 : 精神科養育支援体制加算の新設に伴う多職種チームの設置と初期活動報告
尋木 優介 (社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院)

- P2-2 : 児童精神科病棟における行政支援と入院期間の関連
別府 翼 (社会医療法人聖ルチア会 聖ルチア病院)

- P2-3 : 救急外来における性的被害児診療時のトラウマインフォームドケア
東 志勇 (国立成育医療研究センター 救急診療部 救急診療科)

- P2-4 : 性的虐待による妊娠・出産と支援継続の課題
坂本 奈緒 (医療法人横田会 向陽台病院)

- P2-5 : 思春期期前の男児から淋菌が検出され、調査の結果、家庭内の非性的接触による感染の可能性が高いとの結論に至った一例
丸山 洋子 (名古屋市中心児童相談所)

- 座 長: 白石 裕子 (東京工科大学 医療保健学部看護学科)
星野 崇啓 (さいたま子どものこころクリニック)

- P2-6 : 被虐待児への介入から、精神疾患を持つ母への治療に至り家族再統合ができた一例
池田 仁 (長浜赤十字病院 精神科)

- P2-7 : 若年かつ未受診妊婦への介入を契機に、脆弱な家庭背景に他職種でアプローチし家庭環境だけでなく、復学支援にも繋がった一例
橋本 拓磨 (長浜赤十字病院 医療社会事業部)

- P2-8 : 親の被虐待体験及び慢性疼痛と子どもへの虐待行為との関連についての疫学的検討
水沼 直樹 (東京神楽坂法律事務所・福島県立医科大学・東邦大学医学部)

- P2-9 : Medical Child Abuse (代理によるミュンヒハウゼン症候群) 症例における子ども虐待対応院内組織の対応
川口めぐみ (地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 看護部)